

# 上空の日没絶景

新座市立東北小6年

千田 直樹 11（新座市）

ぼくが初めて飛行機に乗ったのは長崎県に行つたときでした。そのころは、小さかったせいもあり飛行機に乗ることをとても恐がっていました。

ぼくはその後も飛行機に乗る機会がありました。毎回ぼくは苦手です。目をつぶつて自分が雲の上にはいないことを想像しながら座っていました。だが、父に「窓の外を見てごらん」と言われました。こわごわその小さな窓をのぞいてみると地上から見る夕やけとはちがいでどこまでも続く地平線にせずむ太陽が、目の前に広がっていました。

恐い思いを乗り越へて先に、自然が造りだす絶景を、人間が造り出した飛行機が見せてくれました。